

ビラーン通信 18号

— 助産婦ジョジョのクリニック日誌より —

「ジョジョの夫、アベリノがパイナップルを運ぶドールの大型トラックにはねられて重傷を負った。ジョジョはしばらく病院でアベリノに付き添わなければならないので、現地医療活動はかなり支障が出るだろう。サムラングのヘルスワーカー・リディアや、現地医療ボランティアによって、何とか急場をしのいでいる。」

Fr.ルーイから第1報が入ったのは6月初めのこと。その後のアベリノの容体、ジョジョの職務復帰が心配されましたが、7月に入って、彼女から5月分の月例報告が届き安心。5月24日の欄には、

「アベリノ・トリポリが交通事故に遭い頭部、全身打撲で入院につき、一部CMBの医療支援を受けた」とありました。やや短かめであることを除けば、いつもと同じく職務に忠実なジョジョらしく、全く私情を挟まない淡々とした報告でした。低い給与に対して過酷な労働を強いられる山岳地域の医療支援のために、有資格の人材を新たに発掘するのは大変なこと。アベリノの一日も早い回復とジョジョの完全職場復帰を祈りたいと思います。



●サムラング、クリニックで薬を処方するジョジョ(中央Tシャツ)

以下は、4-5月のクリニック報告からの抜粋です。

(事務局)

4月5日: ヘルスワーカー・ヒルダにバリテ・コミュニティー用として、風邪薬、熱、痛みどめなど合計40カプセル、制酸剤ビン入り1本、消毒用アルコール1本を委託。

4月12日: Br.アシナスにキアミ・コミュニティー用として、下痢止め、風邪薬、熱・痛み止めを合計76錠託す。

4月14日: フレッシュメド薬局に、医薬品代 3,057⁷ (約9,800円)支払う。

4月16日: 2週間熱と咳が続いていたバリテのジェリック(7歳)、ジェネラルサントス公立病院で治療を受ける。

4月19日: 全身の擦り傷と頭部に深い裂傷を負ったバリテのマリオ(30歳)、同じく病院へ。

4月27日: 咳と熱の続くキアミのフレルシヨ(2歳)に薬を処方。

5月7日: 両足に皮膚疾患(発病後2週間)のアトゥモロックのフンフン(小学生・17才)、病院で治療。

5月18日: モンゴカヨのヘルスワーカー・セリナとアルキカンのヒルダへ、コミュニティー用医薬品委託。抗生物質、熱冷まし、痛み止め合計100カプセル、咳止めのビン入り薬草茶2本を託す。

同日、モンゴカヨの22歳の女性(妊娠21週目)がひどい目眩と食欲減退、衰弱を訴え病院で治療。

5月21日: サムラングのヘルスワーカー・リディアへ、コミュニティー用に、抗生物質、熱、痛み止め用薬70カプセルと、バンソウコウ、風邪用漢方薬(薬草)委託。

5月31日: フェレッシュメド薬局で、全コミュニティー用に、回虫駆除剤と栄養補給剤購入。

— サムラングで、タバウ・ミンダナウ持続的農業開発プロジェクト実施 —

タバウ・ミンダナウは、干ばつ被害の大きかった昨年度に実施された民間主導のミンダナオ支援プログラムです。政府の緊急支援がいくばくかの米の配給にとどまったのに対して、アヤラ財団、マニラの有力新聞社、などが資金を出したこのプログラムは、その日暮らして干ばつの直撃を受けた山岳部先住民族コミュニティー住民に対して食糧、医療(サムラングでも巡回診療・会報13号P.2)などの緊急支援を実施しました。

今年度タバウ・ミンダナウは、新たに、長期的展望のもと、持続的農業開発を支援することになり、サムラングは、マーベル教区(二つの州とジェネラルサントス市を含むカトリック教会の地域区分)内の二つの対象コミュニティーの一つとして選ばれました。モデル農場での有機農業技術指導などが実施されています。(CMBのニュースレター「GONG」No.2より)

「GONG/ゴング」は、11年前にボルールで殺害されたCMBのカール神父を記念する財団の発行です。タイトルの由来は、先住民族の伝統楽器で、「人を招く・集める」時にも鳴らす「ドラ/鉦」。2月に創刊され、6月に2号が送られてきました。随時翻訳して、ご紹介させていただきますが、原文(英文)ご希望の方はお申し出下さい。

(事務局)